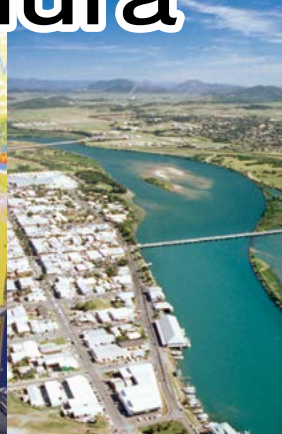




特集 姉妹都市締結30周年

Mackay 絆 Matsuura



姉妹都市とは…

アメリカでの「Sister City」という呼び方を直訳したもので、イギリスでは「Twin City」、中国では「友好都市」と呼ばれています。

さまざまな呼び方がありますが、明確な定義はなく、文化交流や親善を目的に締結した都市と都市のことをいいます。



姉妹都市とは、今月号では、これまでになりに深く関わってきた人などの声を紹介しながら、姉妹都市交流の30年のあゆみを振り返ります。

松浦市とオーストラリア・マツカイ市、両市が姉妹都市を締結してから、昨年の7月で満30年の節目を迎え、12月8日にはマツカイ・松浦姉妹都市締結30周年記念式典が開催されました。

姉妹都市の縁

マツカイ市と松浦市 交流のあゆみ



1989
(平成元年)

7月19日～26日
最初の松浦市民親善訪問団（62人）を派遣
姉妹都市締結

7月22日 マツカイ市にて姉妹都市調印式

1990
(平成2年)

5月25日 松浦市国際親善協会発足
7月～1991年3月 市職員をマツカイ市へ派遣
9月19日～22日
第1回マツカイ市親善訪問団（20人）を受け入れ

1991
(平成3年)

10月1日～5日
第1回マツカイ市青少年使節団（14人）を受け入れ

1992
(平成4年)

7月31日～8月9日
第1回松浦市青少年親善使節団（17人）を派遣

1994
(平成6年)

8月26日～9月2日
松浦市民親善訪問団（23人）を派遣
シュガータイム・フェスティバルにて松浦龍王太鼓を披露

1995
(平成7年)

10月28日～30日
マツカイ市親善訪問団（17人）を受け入れ
マツカイ市のバンドHullabaloo(ハラバラー)が氷軍まつりで「G' Day Matsuura(グッダイ松浦)」を披露

2004
(平成16年)

7月15日～22日
松浦市民親善訪問団（20人）を派遣
姉妹都市15周年を記念した姉妹都市モニュメントの除幕式で松実会による琴と尺八の演奏を披露

2009
(平成21年)

11月28日
マツカイ・松浦姉妹都市締結20周年記念式典

2011
(平成23年)

11月23日～27日
マツカイ市親善訪問団（12人）を受け入れ
10回目の訪問を成し遂げたビル・モロイ氏に特別住民票を授与

2012
(平成24年)

1月26日
松浦市で第1回「オーストラリア・デー・イベント」開催
1月31日
マツカイ市で「松浦通り」（485m）が正式に開通
9月30日
第1回「ビル・モロイ杯Englishスピーチコンテスト」開催

2014
(平成26年)

7月2日～12日
松浦市民親善訪問団（14人）を派遣
姉妹都市25周年を記念して、マツカイ市で25本の南洋杉を植樹
植樹された場所は「松浦アベニュー」と命名

2017
(平成29年)

7月21日
松浦市の特別住民 ビル・モロイ氏死去（87歳）

2019
(令和元年)

12月8日
マツカイ市・松浦市姉妹都市締結30周年記念式典および記念公園除幕式

一人ひとりに

生まれた絆

姉妹都市交流がはじまり30年。この期間、途切れることなく本市とマツカイ市の市民は多くの友情を育んできました。

その中には、当初から関わっている人、使節団の交流をきっかけに家族ぐるみで交流が始まった人々がいます。

また、松浦市国際親善協会(MIFA)やマツカイ市のSister Cities Mackay(シスターシティーズマツカイ)は、市民レベルで交流を支えています。

ここでは、さまざまな人たちの姉妹都市交流に対する思いを紹介します。



マーガレット・ブラウンさん (シスターシティーズマツカイ代表)



私達シスターシティーズマツカイは、姉妹都市の関係をよりよくするために何かコミュニティでできることを実行し、これによって自分自身も成長できるという想いのもと活動しています。

松浦の友人の皆さん、皆さんからいただく友情は、私達一人ひとりを人として成長させてくれています。

私達は、互いの文化の重要性を学び、お互いを尊重します。

30年の結婚のお祝いを「真珠婚」と言います。「真珠」は非常に希少であり、貴重な物で、私達の姉妹都市関係を表していると言えます。

私たちの祈りは、30年後、私たちの後継者をもっと偉大で希少で、貴重な姉妹都市関係を祝うことです。

マーク・レイランドさん (初代姉妹都市委員長)



姉妹都市締結30周年の記念行事に参加することができて、とても嬉しく思います。

私の記憶によれば、松浦市との姉妹都市関係は、松浦市内の石炭火力発電所がダリリンプルベイ・コールタールミナルから運ばれるブレアソール炭の販売によってもたらされた話でした。

関係を結ぶにあたって賢明だったことは、市と市ではなく、市民同士が主体となったことです。これにより様々な人々が参加することになります。教師、退職者、会社員、自営業者、そして学生、生徒。市は中核となり市民を支え、市民が絆を深めていく。

私はマツカイ市を離れ、現在ブリズベンに住んでいるため、マツカイ市にいた時のように交流事業に参加できていませんが、松浦の皆さんとは友人として引き続き交流をしたいと思っていますので、ブリズベンに來られる時はぜひ連絡してください。

パム・モロイさん (ビル・モロイさんの娘)



今回、私にとつては7回目の松浦訪問でした。今回は初めて父ビル・モロイと一緒に訪ねてきたのですが、30年を皆さんと一緒に祝いできてとても嬉しく思いました。

この30年で松浦の良いところをたくさん学びました。私も松浦を第二の故郷、そして皆さんを日本の家族と呼びたいと思っています。

昨年9月にEnglish House(英語コンテストの審査員を務めるために、友人を連れて松浦を訪ねました。友達も皆、松浦が大好きになりました。

松浦市の皆さん、素晴らしい友情をありがとうございます。これからもうろしく願います。

明子^{あきこ}
ドゥーランさん



姉妹都市締結30周年おめでとうございませう

私はマツカイに住み始めて25年になります。その頃から交流のことは知っていました。17年前からマツカイ市から派遣される青少年使節団や市民訪問団のツアーに参加するようになり、数百人になるマツカイ市民を松浦市に案内してきました。

母国である日本、そして、その中でも美しく、人々がとても温かい松浦市に対して、マツカイ市民がとても良い印象を持って帰っていることは間違いありません。一人ひとりが細い糸で結ばれて、それが何百人になると、大きな束となり強い絆で結ばれていることを強く実感しています。これからは、その糸が絶えないように、少しでも手助けができればと思っています。

川本^{ななみ}
七実さん



姉妹都市締結30周年おめでとうございませう

この素晴らしい記念日にあたり、第1回Englishスピーチコンテストに出場したことを思い出しました。

その時に披露したスピーチの中で「松浦市とマツカイ市の交流がこれからも続くことを願います」と話したことは今でも覚えています。なので今回、私自身も一緒にこの記念日を祝えることを大変嬉しく思います。一昨年は訪問団員としてマツカイ市を訪問しました。その際にはマツカイ市民の方々の温かい歓迎と市民の方々の「松浦のことが大好き！」という想いに感動し、その結びつきを強く実感しました。これからも、お互いの都市の市民が家族のように結びつくことができるよう協力できたらと思います。

吉田^{たけや}
建也さん、
由美子さん



姉妹都市締結30周年おめでとうございませう

親に似て英語に苦手意識はあったようですが、同じ年頃の子がいる家庭へのホームステイならば何とかなるかも、との思いで息子たち3人が青少年使節団に参加しました。実際、お互いが理解しようという気持ちで接し、「楽しかった！また行ききたい！」と笑顔で帰ってきました。

また、わが家にはマツカイからの息子が2人増えて、忍者になったり、お城に行ったり楽しい日々を過ごしました。わが家のカレンダーが一番おいしいと言ってくれたのには思わずガッツポーズ(笑)

受け入れには、最初はいろいろな心配はありましたが、子どもたちの笑顔に言葉や国の違いはありませんでした。また遊びに来てくれるのが楽しみです。

松浦市国際親善協会の活動は両市民の笑顔の懸け橋です。心より感謝しております。

椎山^{まや}
摩耶さん



昨年のEnglishスピーチコンテストに出場し、縁あって姉妹都市締結30周年記念式典の場で、マツカイでの貴重な体験をテーマに発表する機会をいただきました。

スピーチの内容は、昨年8月に青少年使節団としてマツカイ市へ行き、そこで第2の家族ができたこと。ホストファミリーの温もりある愛情と絆、真に必要なものは言葉ではなく心であるということ。

また、自分も一生懸命に英語と向き合って伝えようとした努力と、必死に理解しようとしてくれたマツカイ市の方々、これらの努力が人と人が繋がるために大切なことであると気づかされたことなどを英語で伝えることができました。

マツカイでの貴重な体験から、大学では国際関係学を学び、私の日本とマツカイの家族が仲良くなるために必要な力を身に付けたいという夢ができました。今後も私の夢が実現できるよう努力したいと思います。

■石炭がもたらした絆

交流のきっかけは石炭。松浦市には、国内でも有数の規模を誇る石炭専焼火力発電所があり、ここで発電された電気は九州はもとより中国・四国地方にまで送られています。この発電所では、海外から輸入した石炭を使って電気を作っています。

この石炭の多くが当時マツカイ市の近郊の港（現在はマツカイ市内）から運びだされたこと、当時のマツカイ市と松浦市の人口が同規模だったこと、また両市とも海岸線に位置するなど地理的条件が似ていたことから、平成元年7月22日に姉妹都市として締結しました。

■マツカイ市ってこんなまち

マツカイ市は、オーストラリアの北東岸にあるクイーンズランド州の中央沿岸部に位置します。平成20年3月に2つのまちと合併し、現在は、面積約7613平方キロメートル、人口約11万6500人の都市となっています。

同市は、さとうきび産業が盛んなことから、オーストラリアの「シュガーキャピタル」と呼ばれる自然が多く残る海岸沿いのまちです。また、近年は鉱業関連企業の進出がめざましく、まちの経済を支えています。



■両市の交流 人々がもたらした絆

本市では、平成2年9月にマツカイ市から最初の訪問団を受け入れてから、これまでにマツカイ市親善訪問団を16回、延べ290人を受け入れました。一方、本市からも市民親善訪問団を16回、延べ333人を派遣しています。

平成3年からは青少年の交流が本格的に始まり、これまでにマツカイ市からは20回、延べ302人の子どもたちが本市を訪れ、本市からは26回、延べ437人の子どもたちがマツカイ市を訪問しました。

マツカイ市との交流は、松浦市国際親善協会を中心に市民が主体となつて推進されています。互いの市へ頻りに訪問し、ホームステイやホームビジットを通じて家族の一員としてともに生活することで、密度の濃い時間を過ごしています。

こうした交流を通して、お互いの生活や文化を学び、友情を深めてきました

■ビル・モロイさんの存在

ビル・モロイさんは、両市の交流を象徴する功労者です。平成2年に初めてマツカイ市親善訪問団に参加。松浦で楽しい時間を過ごせたことがきっかけで、何度も本市を訪問され、マツカイ市の大勢の人たちが松浦に関心を持つようになりました。

平成23年、81歳で10回目の松浦への訪問を果たされた際には、「特別住民票」を交付して記念すべき訪問をお祝いしました。

平成29年7月に87歳で永眠されましたが、毎年9月に「ビル・モロイ杯Englishスピーチコンテスト」を開催し、両市の交流に尽力されたビルさんの想いを受け継いでいます。

■まちに見える絆

平成16年に姉妹都市締結15周年を記念して、マツカイ市内の植物園の一面に姉妹都市庭園が設けられ、本市から贈ったタンチョウヅルの置物や雪見灯ろうが設置されました。

また、平成24年1月にはマツカイ市内のショッピングセンターの近くに、特別な友情の証として「松浦通り」が開通しました。全長485メートルで、近くにはパーベキュー施設や、子ども広場などがあり、多くの家族連れが集まるエリアとなっています。



■ 広がる交流の輪

青少年親善使節団や親善訪問団の派遣・受け入れなど、両市を行き来する積極的な人の交流以外にも、互いの市への親しみを深める機会が増えています。

本市では、国際化に対応するためには、早い時期から外国語や外国の文化に触れておくことが重要であるということから、外国語指導助手や国際教育・活動支援員を配置しています。

主に外国語指導助手が中学校・高校で、国際教育・活動支援員が保育所などに出向き、遊びを通して異文化に対する興味を子どもたちに持たせています。

また、オーストラリアの建国記念日を祝う催し「オーストラリア・デー・イベント」では、松浦にいなながら、気軽に姉妹都市交流を楽しむことができます。



■ ようこそ松浦へ 姉妹都市締結30周年の絆

マツカイ市のグレッグ・ウィリアムソン市長を団長に、親善訪問団24人が12月6日から姉妹都市締結30周年を記念して本市を訪れました。

市役所駐車場で開催された歓迎セレモニーには、関係者のほかにも、過去にホームステイで受け入れをした家族や市内小中学校および松浦高校の児童・生徒らも多数集まり、団員らを温かく歓迎しました。

マツカイ市親善訪問団は、12月8日に松浦高校で、日本とオーストラリアの食・スポーツ・遊びをテーマとしたそれぞれの文化を体験されたほか、滞在期間中には、ホームビジットなどを通じて、市民との交流を深めました。



■ 30周年記念式典

本市では、姉妹都市締結30周年を記念し、12月8日に松浦市文化会館において、記念式典を行いました。

式典では、友田市長が、「マツカイ市と本市の、長きに渡る素晴らしい友好関係を形にするものがまた一つ増え、大変うれしく思う」と挨拶し、マツカイ市のグレッグ・ウィリアムソン市長は、「皆さまのおもてなしのすばらしさ、そして姉妹都市30周年をこのような素晴らしいものにしていただいたことにお礼を申し上げます。マツカイ市民は、松浦市民の皆さまのこの上ない友情を感じることができました」と喜びを述べました。

また、歓迎のアトラクション（地元よさこいチーム「松浦こいから隊」による演舞の



披露）やビル・モロイ杯English speechスピーチコンテスト参加者によるスピーチの披露などが行われました。式典に参加した親善訪問団員や関係者ら約200人は、30周年を迎えたことをともに喜び、更なる友好関係を築いていくことを誓いました。式典終了後、マツカイ市との友好関係を象徴する要素を取り入れて再整備した松浦中央公園において、モニュメントの除幕や両市長による記念植樹が執り行われました。また、志佐町にお住いの深水敦子さんが考案された公園の新たな愛称「シスター・パーク」も披露されました。夕方からは、祝賀会も開催され、歓談や余興で30周年の記念すべき夜に華が添えられました。





両市の新たな絆の証 『シスター・パーク』

松浦中央公園「シスター・パーク」は、マツカイ・松浦姉妹都市締結30周年を記念するとともに、市民が親しみ憩える空間である公園として再整備に取り組んできたものです。

完成した公園は、大きく分けて芝生広場とイベント広場の2つのゾーンで構成されており、公園の中央にはお披露目されたばかりの「Mackay」のモニュメントが配置され、マツカイとの友好の絆を表しています。

1つ目のゾーンとなる芝生広場には、マツカイ市を代表する「カモノハシ」をモチーフとしたコンビネーション遊具のほかに、コアアヤカングルーの姿を施したスイング遊具など、マツカイ市をイメージできるような遊具が配置されています。

2つ目のゾーンのイベント広場は、イベント開催時にキッチンカーなどの移動販売車が入り入れできるなど、様々な目的や用途に応じて使用できる作りとなっています。また、広場中央には、ある位置からカメラなどで

撮影すると実際に噴水で浮かび上がったように見えるトリックアートが描かれています。

さらに、公園内にはハートマークをかたどった石版が隠れているなど、いろいろな楽しみ方ができる空間となっています。

今回の公園設計に際しては、子ども議会で中央公園の再整備を提案してくれた中学生や、地域との連携学習の一環で同じ再整備を立案してくれた高校生に加え、子育て世代の方々など、多くの市民皆さまから意見をいただき、その意見を参考にしながら設計を進めてきました。

この生まれ変わった公園が子どもから高齢者まで幅広い世代の市民が憩える場として、そして、この公園に足を運んだ人がマツカイ市と松浦市の姉妹都市の絆を感じ、これからさらにマツカイ市との友好の一助になることを切に願うものです。

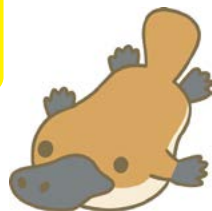


▲愛称を考えた深水敦子さん



左上の壁掛けは、マツカイ・松浦姉妹都市締結 30 周年を記念し、マツカイ市民の方が製作されました。

1 月末日まで市役所ロビーに展示する予定です。



この 30 年という長い期間をかけて、本市とマツカイ市は信頼関係を築き上げ、強い絆で結ばれるようになりました。

これは、行政だけではなく、お互いの市民がいつの時代も姉妹都市交流に対して理解を深め、関心を持って交流活動に参加した成果によるものです。

今後とも市民と行政が一体となってこの友好の歴史を継承し、さらに交流の輪を広げていきたいと考えています。

■さらなる交流に向けて